

令和3年度 東北森林管理局 秋田県内における重点取組事項

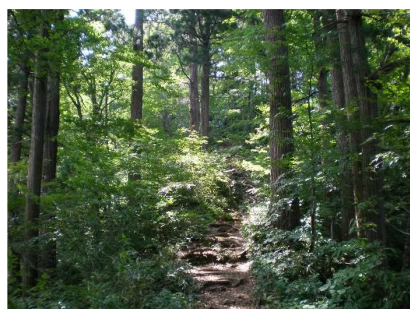


秋田県内の国有林について

秋田県の約7割が森林であり、森林の45%を占める国有林39万haを管理経営しています。
管内には、白神山地、鳥海山、森吉山をはじめとした天然広葉樹林や、日本3大美林に数えられる天然秋田杉が県北部を中心に分布しています。このほか、県内全域でスギなどの人工林が造成されています。



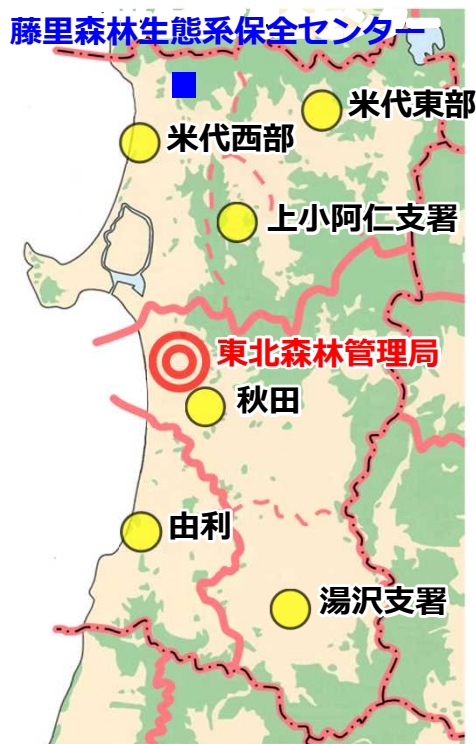
白神山地のブナ林（米代西部署）



仁別自然休養林（秋田署）



鳥海山：桑ノ木台湿原（由利署）



凡	例
	国有林
	森林管理局
	森林管理署、支署
	森林生態系保全センター
	森林計画区界
	森林管理署・支署界



竜ヶ森風景林（米代東部署）

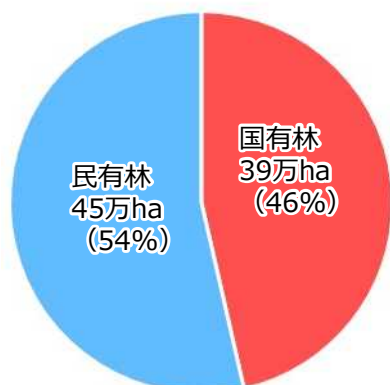


上大内沢自然観察教育林（上小阿仁支署）

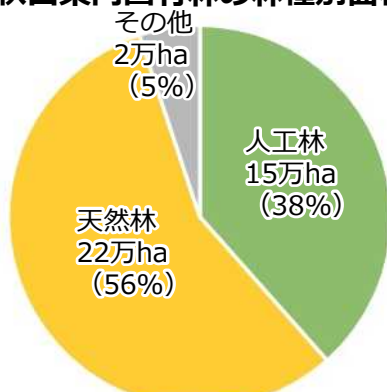


栗駒自然休養林（湯沢支署）

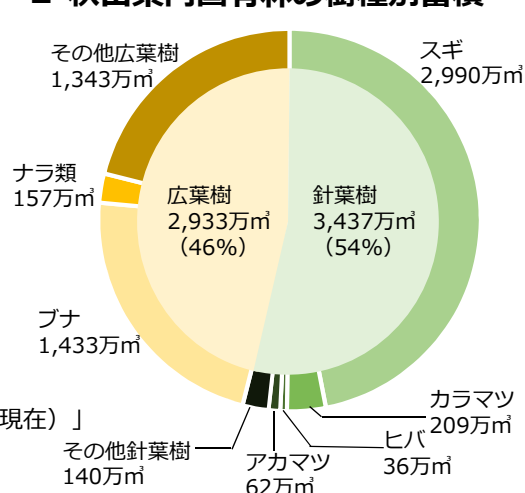
■ 秋田県内民有別森林面積



■ 秋田県内国有林の林種別面積



■ 秋田県内国有林の樹種別蓄積



出典：国有林面積及び民有林面積は、林野庁「森林資源の現況（平成29年3月31日現在）」
国有林の蓄積は、東北森林管理局「令和2年事業統計書（令和元年度版）」

<森林経営管理制度を支援>

民有林において、平成31年度より森林経営管理法に基づく新たな森林管理制度が導入されており、秋田県フォレスターチームとして市町村を支援していきます。

■ 森林経営管理制度への支援

森林経営管理制度を推進する各種協議会や研修会、森林経営を委託する民間事業者選定委員会等に参画します。



森林経営管理制度研修会への支援

■ スキルアップへの支援

林業の成長産業化を目指し、森林経営における現場作業の低コスト化に向けた現地検討会等を開催し、市町村林務担当者にもスキルアップの場として積極的な参画を促します。



一貫作業システム現地検討会

■ ICT技術等の情報発信

林業イノベーションの推進を図るため、ドローンやGISを活用した森林状況の把握手法や活用事例を市町村林務担当者等に情報発信します。



ドローン講習会

■ 林業経営者への情報発信

森林経営の委託を希望する「秋田県意欲と能力のある林業経営者」を対象に、列状間伐や早生樹の植栽など国有林が取り組んでいる実例を紹介し、林業の低コスト化につながる情報を発信します。



列状間伐現地での検討・意見交換会



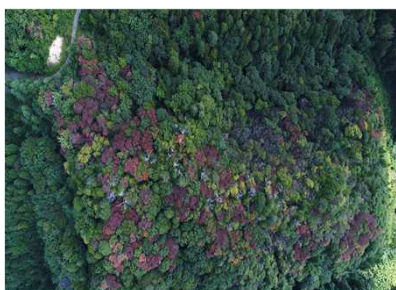
早生樹植栽地での検討・意見交換会

＜森林病虫獣害への対策＞

県内で急激な広がりを見せたナラ枯れや日本海沿岸を中心に広がる松くい虫被害、全国的に増加が確認されているニホンジカによる森林被害などに民有林と連携して拡大防止に取り組みます。

■ ナラ枯れ対策

県内全域に急激に拡大するナラ枯れの被害状況を踏まえ、ドローンなどのICT技術を積極的に活用し被害の把握を進めるとともに、民有林と連携した被害対策として、ナラを含む広葉樹林の若返りに取り組みます。また、「守るべきナラ林」は枯損防止のための対策を実施します。



ドローンで撮影したナラ枯れ被害地



ナラ枯れ被害地の現地研修会

■ 松くい虫被害対策

「風の松原」をはじめとする日本海沿岸の松林を保全するため、県と連携し薬剤散布等のマツクイムシ防除対策を進めます。また、保護活動に取り組む市民ボランティアの活動を支援します。



松林への薬剤散布



ボランティア団体と連携した海岸林整備の様子

■ ニホンジカ対策

ニホンジカは里山での目撃情報が増え、他県からの移動が確認されていることから、秋田県林業研究研修センターや市町村と連携し、白神山地や田沢湖周辺で生息地・越冬地の調査を進めます。



センサーカメラで撮影されたニホンジカ

<地域産業の振興に向けた国有林材の供給>

秋田県内においては豊富な杉の人工林資源の活用が進んでいる中、国有林は地域の需要動向に注視し、木材の安定的・計画的な供給を進めるとともに、県と連携し高齢級秋田杉のブランド化に取り組んでいます。

■ 木材の安定供給・高齢級秋田杉のブランド化

森林整備を計画的に進める中で、地域の木材産業、木質バイオマス発電事業等を支えるため、地域の需要動向を注視しながら国有林材の安定的・計画的な供給に取り組めます。

また、秋田県の伝統工芸品など高齢級秋田杉を利用したモノづくりを行う地域産業の振興を図るため、高品質の秋田杉を「あきたの極上品」として生産・販売し、ブランドの確立、民有林への普及に取り組めます。

木材供給量(秋田県内)

年度	立木販売量	丸太販売量
H31	336千 ³ m	224千 ³ m
R2	115千 ³ m	216千 ³ m
R3(予定)	617千 ³ m	249千 ³ m



市場に出品された「秋田の極上品」

「秋田の極上品」販売量

年度	販売量
H31	793千 ³ m
R2	1,650千 ³ m
R3(予定)	1,800千 ³ m



高齢級秋田杉採材検討会



「あきたの極上品」旗印

■ 広葉樹資源の活用を推進

広葉樹を有効利用するため、採材の現地検討会などを開催し、地域の需要に対応した木材供給に取り組めます。



市場に出品されたブナ



採材現地検討会

広葉樹の販売量

年度	販売量
H31	11,514千 ³ m
R2	6,375千 ³ m
R3(予定)	11,007千 ³ m

<地域の人材育成に向けた取組>

秋田県知事と東北森林管理局長は平成26年に「秋田を元気にする緑の覚書」を締結し、連携して森林を活かした地域経済の活性化などに取り組んできました。林業従事者の確保・育成を進めるため、国有林のフィールドを提供するとともに、地域の教育機関等と連携し、森林教室や木育に取り組みます。

■ 県と連携した人材育成

令和3年3月11日に締結した「秋田林業大学校と秋田森林管理署の人材育成に関する連携協定」に基づき、フィールドの提供等による人材育成を支援します。

また、地域の教育機関と連携しインターンシップ等の受入れによる学習活動を支援します。



秋田林業大学校と連携協定



インターンシップでの高性能林業機械操作体験

■ 地域と連携した人材育成

他業種で働く方にも林業を知ってもらう一環として、地域の医療機関と連携し、医学生などの現場作業の見識を深める場として、現場実習のフィールドを提供します。



医大生の現場実習の様子

■ 教育機関等と連携した人材育成

環境保全の意識を醸成し、将来の林業を担う人材が育つことを期待して、地域の教育機関と連携し、森林教室や未就学児を対象とした木育等に取り組みます。



町と連携した木育の取組



森林教室の様子

(参考)
令和3年度 東北森林管理局主要事業量（秋田県内）



区 分		令和3年度	令和2年度	前年度比 (%)
伐採量 (千m ³)	合 計	1,208	1,165	104%
	（主 伐）	740	757	98%
	（間 伐）	468	408	115%
木材供給量 (千m ³)	立木販売量	617	599	103%
	丸太生産量	249	238	105%
	（青森ヒバ）	-	-	-
	（ス ギ）	149.6	152.6	98%
	（カラマツ）	4.3	1.8	240%
	（その他針葉樹）	1.5	1.5	99%
	（針葉樹低質材）	82.6	70.4	117%
	（広葉樹）	0.06	0.0	-
	（広葉樹低質材）	11.1	11.7	95%
更新量 (ha)	新 植	497	507	98%
保育量 (ha)	下 刈	1,555	1,118	139%
	つる切・除伐	688	545	126%
	保育間伐・本数調整伐	3,577	2,672	134%
路網整備 (km)	林道新設	9.3	5.3	175%
治山事業費 (百万円)	合 計	915	1,146	80%
	（民有林直轄）	-	-	-

(注)

- ①各事業量は当初予定の事業量で、前年度からの繰越事業量を含む。
- ②立木販売量は、立木材積である。
- ③丸太生産量の青森ヒバ、広葉樹は、一般材の生産予定量である。
- ④端数処理のため、計が一致しない場合がある。